

# 吹田市 農委だより

第 79 号

令和8年(2026年)

1月1日発行

編集・発行

吹田市農業委員会

吹田市泉町1丁目3番40号



写真は吹田くわい

## 年頭の御挨拶



吹田市農業委員会

会長 吉田 俊之

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、ご家族お揃いで新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

また、平素より農業委員会の運営にご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、一昨年より続いております米の価格高騰ですが、令和7年10月25日現在、農林水産省は令和7年産主食用米の予想収穫量は、生産者が使用しているふるい目幅ベースで71万一千トン、前年に比べて66万2千トンの増加で、平成29年以来最大の見込みと発表しました。また、コメ政策の軌道修正が進められ、需要に応じて生産する原則が打ち出されました。今後は適正な価格で安定的に米が供給されることが期待されます。

また、ここ数年続いている異常気象の影響で農作物栽培が厳しい状況となっています。記録的な高温が続ぎ、米や果物の品質低下と収穫量の減少を招きました。更に、干ばつや多雨によるイモ類、野菜類への影響も出てきており、農業者を取り巻く環境変化の厳しさはまだまだ続くものかと考えております。

農業委員会としましては、農業者の代表として、充実した農業振興施策を実施するよう働きかけてまいりますので、農業委員会への皆様方の一層のご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。あわせて皆様方の益々のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

新春のごあいさつ

吹田市長  
後藤 圭二



明けましておめでとうございます。  
農業者委員会の委員及び関係者の皆様方におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心よりお喜び申し上げます。

また、平素より本市の農業施策の推進に多大なご貢献を賜り、厚くお礼申し上げます。  
さて、近年の気候変動による異常気象が全国的に深刻化する中、農業を取り巻く環境においても、農作物の収穫量の減少、品質の低下などの影響が問題となつていきます。本市でも、記録的な高温、少雨が続く、農業者の皆様

の苦勞が絶えないことと存じます。また、いわゆる「令和の米騒動」が一昨年から続いておりませんが、2025年産の新米については増産が見込まれるものの、需給の緩和が待たれる状況であり、まだまだこの問題は続くのではないかと懸念されています。このような状況のもと、農業の重要性が再認識され、持続的な農業政策が望まれる一方で、農業者の高齢化や担い手不足等、農業を取り巻く環境は厳しい状況にあります。

本市におきましては、農地を保全し、農業者の方々をお支えする地産地消の推進や市民農園、景観形成作物の栽培奨励などの取組を行っております。今後も、各種の農業施策を実施し、農地の保全など農業の振興に努めてまいりますので、引き続き皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとりまして実り多き一年となりますよう祈念申し上げ、新春のご挨拶といたします。

新年を迎えて

吹田市議会議員  
矢野 伸一郎



明けましておめでとうございます。  
農業者委員会を始め、市内農業関係者の皆様方におかれましては、清々しい新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

また、平素より本市農業施策の推進に御理解、御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。  
昨年は、猛暑の影響や資材価格の高騰、米の供給不足などにより、農業を取り巻く環境が一層厳しさを増した一年となりました。

そのような中、貴委員会におかれましては、農業者研修会や学童農園を実施されるなど、地域農業の振興と市民理解の促進に大きく貢献いただきましたことに、深く敬意を表する次第です。市民が農業に触れる機会を通じて、食や地域への関心が高まり、農業の価値が再認識されることは、持続可能なまちづくりにもつながるものと考えております。委員の皆様が現場で培われた知見や経験は、地域農業の未来を支える大きな力です。今後も、その御活躍を心より期待しております。

市議会といたしましても、都市近郊に位置する吹田市ならではの農業の可能性をいかし、地産地消や景観形成など、多様な価値の創出に向けた取り組みを推進してまいります。

結びに、貴委員会の今後ますますの御発展と、皆様方の一層の御健勝、御活躍を心からお祈り申し上げます。新年の御挨拶とさせていただきます。

謹賀新年

本年もよろしくお願い申し上げます

吹田市農業委員会

会長 吉田 俊之

副会長 角田 和子

農政専門委員 田口 末次

農政専門委員 橋本 家平

副委員長 山本 元治

委員 榎本 喜志郎

委員 奥 祐次

委員 西 盛

委員 西 川 聡志

委員 下 井 繁

委員 川 上 光男

委員 島 中 秀樹

委員 辻 本 忠正

委員 前 田 義昭

委員 水 田 和真

事務局 東 田 康司

職員一同

(議席順)



## 大阪府農業委員会大会

令和7年度大阪府農業委員会大会が10月24日、大阪国際交流センターで開催されました。この大会は大阪府農業会議が毎年開催しているもので、府内の農業委員会委員等約700人、一般消費者約120人が参加し、本市農業委員会からも多数の委員が参加しました。

第1部では、農業委員会委員等表彰、永年在任者表彰、なにわ農業賞表彰が行われ、本市からは永年在任者(10年)として、農業委員会事務局の木下主査が受賞しました。また、議事では食料・農業・農村基本計画に基づく施策の拡充に関する要請決議などの議案が議決されました。

第2部では、東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授の鈴木宣弘氏による「コメ生産・流通の現状と課題」と題した講演が行われました。



## 吹田くわいを育てませんか

吹田原産の伝統野菜である「吹田くわい」は、大阪府の「なにわの伝統野菜」にも認証されている希少な野菜です。芽が出ることから「めでたい」縁起のよい食べ物として、お正月に向けて収穫されます。一般的なくわいより小粒であり、甘みがあるのが特徴です。

昔は川辺や田んぼに自然のままに生えており、江戸時代から明治までの間、京都御所へ献上されていました。しかし、田んぼの宅地開発や除草剤の影響で一時期は絶滅したといわれるほど、数を減らしました。

そのような中、市、「吹田くわい保存会」、農家や市民の皆様等と協力して、吹田くわいの栽培・普及活動に取組みはじめて、今年で25年目になります。

現在では産官学連携として吹田くわいを使用した商品開発も行われ、新たな活用方法もできてきています。

市では吹田くわいの生産量を増やすため、栽培面積に応じた補助金制度や収穫ボランティアの派遣も行っています。

栽培に興味のある方はお問い合わせください。

### 〈お問い合わせ先〉

吹田市地域経済振興室農業担当

TEL 6384-1373

## 吹田くわいの食べ方

吹田くわいの下処理

- ・芽を折らないように水洗いする。
- ・皮をむく。
- ・お米のとぎ汁で5〜10分ゆでてあく抜きを行う。

※ 小さなくわいであれば、手やスポンジで薄皮をむくことができます。

縁起物ですので、お正月のお雑煮に入れたり、お煮しめなどおせち料理によく使います。

また、手軽に吹田くわいの素材の味を楽しむのであれば、180度の油で素揚げにするのがおすすめです。軽く塩を振ればお酒にも合います。



ボランティアによる収穫の様子



吹田くわいの花

収穫した吹田くわい。  
(赤みがかった色が特徴)

## 農作物品評会の開催結果

令和7年11月11日、吹田市・吹田市農業委員会・北大阪農業協同組合主催の農作物品評会が、子育て青少年拠点夢つながり未来館で開催されました。

対象作物は玄米で、審査の結果、市長賞、農業委員会会長賞などの受賞者が決定しました。今回は23点の出品がありました。

## 品評会入賞者

## 市長賞

春日 山本 元治さん

## 農業委員会 会長賞

垂水町 村田 幸夫さん

## 北大阪農業協同組合 組合長賞

江坂町 白井 善吾さん

## 優秀賞(出品番号順)

江坂町 中尾 康則さん

山田東 辻本 清信さん

山田東 西島 進さん

春日 前田 義昭さん

## 市民賞

江坂町 楠本 直樹さん

## 農業者年金に加入しませんか

## 加入資格

年間60日以上農業に従事  
国民年金第一号被保険者

20歳以上65歳未満

(60歳以上は国民年金の任意加入者)

(保険料納付免除者を除く)



## お問い合わせ先

J A 北大阪 経済係北事務所

TEL 6877-0261

吹田市 農業委員会事務局

TEL 6384-2792

## 全国農業新聞を

## 購読してみませんか

最新の農業情勢について分かりやすく解説し、農業者の経営と暮らしに役立つ情報をお届けします。

お申し込みは、お近くの農業委員又は農業委員会事務局へ

◇購読料 月額700円

◇発行日 毎週金曜日

## 収入保険または農業共済へ

加入しましょう！

## 収入保険

対象 青色申告を行っている方

原則全ての農産物を対象に、自然災害や価格低下だけでなく、農業者の経営努力では避けられない収入減少を広く補償します。

## 農業共済

対象 全農業者

米、麦、畑作物、果樹、家畜、農業用ハウスなどが自然災害によって受ける損失を補償します。

## 《お問い合わせ先》

大阪府農業共済組合 北部支所

住所 茨木市西駅前町10番20号

TEL 072-631-7737



## なくそう、無断転用

農地を農地以外の用途に変更する場合には、農地法第4条または第5条の規定による届出が必要です。

農地転用届出をしないで無断転用した場合は、農地法に違反することになります。